



「バイブルミュージアム」 プロジェクトが与えられて

NZから「イエスの時代」アイテム、約1万7千点が日本へ

チア・につぼん代表 稲葉寛夫

NZ首都、ウェリントンの倉庫に待機したアイテム





「ガリラヤ湖の奇蹟」撮影用の船。3艘が日本へ

「バイブルミュージアム」
「シラム」が生まれ
た背景

昨年9月中旬、日本で「バイブルミュージアム」を設立する話が与えられました。聖書や福音が明確に体感できる、楽しく霊的な博物館の建設という伝道プロジェクトです。



輸出作業をリードしてくれたトーマスさん(奥)と小原航二さん(左)

チーク材を駆使した神殿の扉。
1枚300~400kgで8枚



設立の背景には、キリストの福音を伝える映画制作が関係しています。映画の内容は、創世記から黙示録に書かれた「福音」を伝えます。神に創造された人間とその罪、裁かれるべき人間を救うた



上:ラグビーNZユース代表らも鼻血を出した重作業の3週間! / 上から2番目:13m級の大型コンテナ7本にぎっしり詰められ、洋上へ / 上から3番目:ゴルゴダの丘のシーンの十字架も日本へ



めのキリストの誕生、罪の罰の身代わり、十字架の死と復活。そして再臨と裁きと天国という、旧新約聖書の福音を包括した約2時間半の作品です。伝道に用いられ、1千言語に翻訳された映画「ジーザス」を制作したキャンパスクルセードらと共に、8年越しで準備が進んでいました。「ロード・オブ・ザ・リング」や「ナルニア」の制作スタッフらがセットや衣装等を制作し、キャストイングの準備も進み、いよいよロケもスタートするところでした。ところが、映画

の規模が膨らみすぎて資金をさらに集める必要が生じ、2008年1月にロケはストップ、活路を模索することになりました。裏を返せば、アカデミー賞受賞やノミネートされた映画の制作陣ら20数名の指揮のもと、約700名のスタッフが才能を発揮し、高レベルの大道具、小道具、衣装等が準備されてきたわけです。最先端の技術と情熱をつぎ込み、しっかりとした歴史考証をした結果、これまでにない大規模なスケールの伝道映画が、整っていきまし



陶器・食器約500個も
時代考証に基づいて再生された

た。「タイタニック」「ターミネーター」など多くの大規模作品を手掛けたスタッフたちが、「このような大掛かりなセットやプロップ（小道具等）は見たことがない」と言うほど、巨大なスケールでした。

聖書時代へのこだわりは深く、例えばコスチュームを担当したのは、「ロード・オブ・ザ・リング」でアカデミー賞を受賞し、「ラストサムライ」ら2作品でもミニメートされたナイラ・ディクソン

さんらのチーム。当時の機織りの手法に基づいて、布を織り、染めるところから始め、約3千着のコスチュームが制作されました。

しかし、それから6、7年が経ち、多くの祈りと情熱と技術と資金が注がれたアイテムがまさに売られんとする昨年9月中旬、アイテムを日本に輸入してバイブルミュージアムを設立する話をいただいたのです。数年でできるプロジェクトではないと思いますが、アイテムを確保できることは希望の知らせでした。何より、キリストの福音を伝える扉が開かれんとすることは、関係者一同を鼓舞するものでした。

ミュージアムを通しての福音

国際化が言われて久しい日本ですが、国際理解のためにも、聖書の福音を情報として理解していく必要があるでしょう。日本には、30万人もの殉教者を出した（新井



ローマの彫像を梱包するトーマスさん



白石『西洋紀聞』、世界でも特異な歴史があります。最近、長崎の迫害や殉教の歴史物等、世界遺産

にも指定されました。そうした日本
のキリスト教史の展示もできる
でしょうし、また、三浦綾子記念



11月23日

12月12日



約3週間でコンテナ5本の積み込み終了。
残り2本は1月の作業へ

文学館や星野富弘美術館といった素晴らしい展開との連携も考えられます。このような福音を体感できる「バイブルミュージアム」の日本での展開は、意義があるのではと期待しています。その第一歩が、今回のアイテム輸入と保存の作業です。

大きなプロジェクトでもあり、簡単には進まず、9月から今年4月にかけて、30回ほど驚くような困難も許されました。しかし、「すべての事について、感謝しなさい」(第一テサロニケ5・17)との聖書のことばも響き、「新たな困難に、新たなファイトが湧きます。主よ、あなたに頼ります」と心に刻みました。そして、扉は開かれ続けていきました。

1万7千超の アイテム 二段階作戦で 乗り切る

1回目の昨年9月のニューージー

ランド出張は、前日に雪などが降り、少しひんやり曇天の2日間。10日後の第2回目(昨年10月)は、春の陽光の中、木々の枝から芽が出始めた3日間でした。このプロジェクトも、冬から春に向かつているのかなと思いました。

そして11月の白馬セミナーの翌日から私は、建設・運輸関係のエキスパートのトーマス・ブローマンさん、小原航二さんと共に3回目の出張に向かいました。12月半ばまでの24日間、コスト削減と時間のプレッシャーの中で、時に300キロを超える重量や、1万7千点を超えるアイテム数に圧倒されそうになりながら、大型コンテナ7台分の積み込み作業をしていました。

一緒に作業してくれたトーマスさんは明泉学園啓明小学校の教頭で、明泉学園関連の建設では「清水建設」や「安藤ハザマ」を監督・指導するほどの実力派であり、アイテム受け入れ先である愛知県明泉愛郷スクールでのリーダー

となつてくださいました。そのお弟子さんとして訓練を受けて独り立ちした小原さんも現地チームをリードしてくれました。

トーマスさんは先に

帰国する必要があり、

私と小原さんは滞在を

10日間延長。それで

も、1万7千点の清

掃、分別と計量、パツ

キング、書類作りと積

み込みの全作業を、丁

寧には終えられそうに

ありません。状況を見

たトーマスさんは海運

会社と合議し、第一便

(5本のコンテナ)の

重量級7千点と、第二

便(衣料や革製品、武

具等、書類制作が難し

い1万アイテムを中心

にしたコンテナ2本)

の2回に分け、丁寧に

パッキング、書類作成

をする作戦を考えまし

た。

私も二段階作戦で行くのがベストと思い、プロジェクトオーナーのBさんに提案、承認していただ



小原さんとNZ輸出準備第二陣へ。ジョセフ(8歳)、NZでホームスクーリング&訓練の3週間(1月22日~2月10日)

くことができました。

ラグビーの猛者たち と共同作業



ニュージーランドと言えば、ラグビーが国技です。パッキング&積み込み作業に、ラグビー選手の猛者の皆さんら8名余りと取り組みました。中には、ユースのニュー

ジーランド代表として
昨年来日し、ヨーロッパ

パ遠征にも出かけ、今年5月にも来日予定のタモテ君など、現役のトップ選手も来てくれました。しかし1枚400キロ余りの神殿の扉等、重戦車のような作業の日々に、強じんなタモテ君でも鼻血を出すほどでした。私も最後は8日

連続で鼻血を出しながらの日々でしたが、神さまの恵みと多くの皆さんの助けで、まず第一便、大型コンテナ5本分を仕上げてくることができました。

作業をしながら驚いたこと、勉強になったことがたくさんあります。その一つは「エイジング加工」です。エルサレムの市場シーンの店の机や、カヘナウムにあるペテロの実家の家具など、古い家具



上・中:引越し会社のルイ社長は毎日、フォークリフトにジョセフを同乗させて運転指導。フォークの操作ができるようになった!／下:第一チームのサリーさんと息子のスティーブさんは、ジョセフを3日間海釣りや博物館に連れて行ってくれた。小原さんは、そば粉アレルギーでICUに緊急入院! 3日後には仕事に復帰し、神さまを皆で讃えた!





約45トンのアイテム(第一便)が日本へ到着

等が山のようにあります。ただの古いガラクタに見えますが、実は古く見えるように「エイジング加工」という高い技術を駆使して作られていたのです。

アイテムに付いた砂ボコリをブラシで落としながら、日本行きアイテムを選んでいく時でした。錆びて汚い大工道具があり、「これはひどいなー。インドの市場で安いのを買ってきたのかなー」と思いながら分別していました。

翌日、設計図を整理していると、この大工道具の設計図がありました。アイテムは、イスラエルの聖書学者や研究所の指導を受けて制作されたもので、聖書時代の大工道具そのものでした。「エイジング」にしても、「時代考証の確かさ」にしても、改めて驚きました。

NZからの 第一便アイテム 保管、完了!

そうした中、「NZアイテムの積み下ろしのボランティア」を募ることになりました。東日本震災後の2年間、8度にわたってチャ・ボランティアチームを編成したことがあり、そこでの作業は厳しいながらも、子どもたちの良き訓練・育成の場として神さまが祝福してくださりました。チャ・サポート・スクールの堀井卓校長とも「また、特別な訓練の場が与えられるといいですね」と話していたところ、その新しい機会が今回、与えられたわけです。

全国から総勢43名が集まってくださり、仕事は順調に進みました。6日間の目標が、何と5日間で完了。奇蹟の連続という思いでした。

最初の関門は、税関での許可がスムーズに下りるかどうかです。

13mの大型コンテナ5本、アイテム数は約7千点と、普通はなかなか無いケースで難しいと言われていました。例えば、同じ種類の服なら何万着でも輸入検査は簡単で



すが、今回の輸入アイテムはキリスト時代の生活を再現するので、種類も素材もデザインもまちまちです。海運会社7社に輸入作業の見積もりをお願いしたところ、2社は全品検査が必要で、期間は約1カ月余り、コストは約2千万円の見積もりでした。7社の中で一

番好条件を目指してくださいだったので、日本の海運会社トップ10に入る大手で、特に名古屋港の物流をリードするA社で、そこに決定しました。A社の皆さんの素晴らしいご指導の下、輸入書類の作成に3カ月をかけ、尽力しました。

第一便のコンテナには、ガリヤの船、オリブの樹木、ローマの彫像、家具、鉄器、陶器、

神殿の扉、十字架ほか重量級の7千点が積み込まれています。渾身の準備をもって迎えた本番ですが、A社のCさ

んから言われたことは「全品検査になるかどうかは検査官の判断次第であり、結果は誰にも分かりません」との現実です。これは見積もりした全7社に言われたことでもあります。Cさんは、「ここまで来ました。祈っています」と、クリスマスチャンの私としてはとてもうれしい励ましの言葉を伝えてくれました。

43名のボランティアたちが、5日間のチャレンジを全うする

全国から43名が集まってもらいましたが、もし全品検査で日数がかかれば、今回は積み下ろしはできず、保管場所の



掃除と準備だけをして早期帰還ということも考えられました。それで、事前に保護者の皆さんにも伝え、祈ってもらっていました。スケジュールがずれると、丸森の伝道チームの皆さんが次回来られる





ゲツセマネの園のオリーブの樹木(復元)

かどうかも分かりません。また、全品検査となれば費用もかかります。

結論としては、最短の2日間で通関となり、時間もコストもセーブできました。「無事、通関！」の連絡がCさんから届いたのは、一行が保管場所となる愛知県の廃校に着き、全校舎の掃除に汗を流していた夕方6時すぎのこと。願っていた翌日火曜朝からのコンテナデバン（荷下ろし作業）が可能になった瞬間でした。

**一人当たり2トン、
総計90トンを運ぶ**

総重量45トン余りのアイテムを、怪我なく、期間内に運び込むことも祈りの課題でした。トーマスさん、小原さんらをリーダーに、丸森伝道チーム16名の皆さんの指揮の下、ホームスクーラー27名も奮闘。一艘500キロを超える舟3艘や、1枚400キロ余り

のチーク材で造られた神殿の大型扉8枚ほか、難作業が予測されましたが、大きな怪我もなく仕事は進みました。

保管場所となる校舎付近は山道で、コンテナ車が近づけないため、3キロほど離れた牛舎の原っぱにコンテナ車を駐車させ、3台





のトラックに積み替え、ピストンの輸送します。つまり、積み込み・積み下ろし作業を2回行うことになるので、総計90トンです。クレーン等も使いますが、最後は全部、手で運ぶことになるので、ボランティア一人当たり、2トン余りを運んだ計算になります。その作業を1日早く5日間で終わることができるとは、誰も予想していませんでした。

怪我といえば、一人、A君(15)が釘を踏んでしまい、応急処置をして病院に連れて行きました。幸いA君は、事前の指導に従って作業用の靴を履いていたおかげで、約5センチの釘は深く貫通せず、医師からも「大丈夫でしょう」

と診断を頂き、ホッとしました。その日の午後からA君は元気に作業に戻れ、皆で神さまを讃えました。自宅に戻ったころには、ご両親も釘あそを探るのが難しいくらい回復していたと、うれしい連絡が届きました。

そのほかは、筋肉痛や肩を痛めたぐらいで、大きな怪我はなく、みんな笑顔で主を讃えて戻れたことも感謝でした。

5日間、紺碧の空で小春日和に恵まれたことも大きかったです。出発前は、東京も雨と寒さの日々が続いていました。上記の通り、牛舎の原っぱでのデバン作業から始まります。もし雨であれば、アイテムはすべて水浸しになり、今後の保存に支障をきたします。また、シートをかけながらの作業では、時間と労力を費やし、寒ければ怪我の確率も増し、体力の消耗も激しかったことで



朝夜の聖書の時間は大好評! 8人の大人が、若者たちを励ました



しよう。最終日、下山する1時間前から小雨となり、下山の時は大粒の雨でした。神さまがすべてを支配されている、そのことを思わずにはいられませんでした。

朝晩の食後には、伝道者の皆さんやホームスクーラーの親御さんから聖書の話をしていただきました。これも参加者みんなにとっても好評でした。ティーンの子どもたちも、真面目で明るく、従順に、必死によく頑張ってくれました。

ホームスクーリングの实!

今回、集まった27名の子どもたちは、生まれた時からホームス

右上:ミニ展示室も完成! / 中:家具・農耕具・エルサレムの市場・神殿などキリストの時代の暮らしがよみがえる



筋肉ついたよ!

クーリングで育てられた子どもたちで、この世の影響をほとんど受けずに成長してきた点で、違うものを感じました。もちろん、私自身同様、まだまだ未熟で、これからも山あり、谷ありでしょう。でも、その土台が、少しずつ、堅固にされていると思い、今後に無限の可能性を感じます。

チャ・サポート・スクール(CSS)の子どもたちも多かったですが、特に1年前からCSSでは改革を進め、強いところを伸ばし、弱いところを強めています。その成果も見られて良かったし、またCSSに限らず、全国のホー



ムスクーラーの親御さんの、神さまにある地道な努力が着実に実を結んでいるのだと思い、心から感謝している次第です。

神さまのあわれみと恵みは、チャーチ&ホームスクーラーたちの上に注がれています。「バイブルミュージアム」プロジェクトは、予想もしなかった展開ですが、大事なプロジェクトとして、これもチアに与えてくださったのかなと思います。簡単ではないですが、神さまが力を与え続けてくださっている気がします。

チアの歩みも18年目になりましたが、新たな実を結ぶステージに向かっていると思います。私自身も、悔い改めつつ、そして豊かな実の刈り取りを確信しつつ、一歩一歩、神さまの恵みにあずかる歩みできればと思いました。◇

右上:5日間のうち約1時間だけ雪と雨。あとは紺碧の空! 積み降りし作業は完全に守られ、神さまを讃えた/下:キリストの十字架を担ぎつつ、ミュージアム早期完成を祈った